

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
12	笹川 朝子（7）	<p>1. 住宅リフォーム助成制度の創設について</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、行動の自粛が求められている中で、家にいる時間が長くなっています。こんなときだからこそ、家のバリアフリー化や、風呂、トイレ、台所などの水回りをリフォームして住環境をよくしたいという声に応え、また市内業者に仕事が回り、落ち込んだ経済の立て直しのきっかけにするためにも、住宅リフォーム助成制度の創設を求めるものです。</p> <p>既にこの制度を実施している自治体は、全国に多くあります。</p> <p>京都府与謝野町では、2009年度から2011年度の3年間の取組について、利用者と事業者にアンケートを実施し、利用者から689通、事業者から71通の回答を基に、この制度の経済波及効果の分析を京都大学の研究グループに委託してまとめています。「2億6000万円の補助金投資に対し、約40億円直接消費（工事費）が行われ、その生産波及効果は63億400万円に及んだ」と試算されています。波及効果の総額は、工事費に対しては1.61倍、補助金に対しては23.84倍に上ったとし、町内商工業の活性化に資するという制度の目的を果たすものであったことを実証する結果が得られたと結論づけています。</p> <p>同町の助成は、新築・改修工事費用の15%（上限20万円）です。</p> <p>利用した住民からは、「跡継ぎのない家庭では、退職にともない収入も減って高齢者に適した風呂、トイレ、段差解消など改修が困難である。ぜひこの制度の充実と継続、そして一回だけの制度の利用制限をなくし、必要に応じて利用できるようにしてほしい」、「与謝野町で安心して長く暮らしていくために、介護保険だけでなく一般の高齢者の方が不自由なく生活するためにも良い制度だと思う」、「町内業者に仕事が回り、業者を利用した住民も役に立ち大変喜んでいます。この制度は地域循環型のシステムであり、今後も続けてほしい」などの意見が出されたということです。</p> <p>アンケートのまとめでは、改修された住宅は築30年から50年のものが多かったことや、本制度が住環境を向上させるための改修工事を行うきっかけになったと述べられています。</p> <p>富士宮市は、東日本大震災の翌年から、住宅リフォーム宮クーポン事業に取り組み、市民に喜ばれているそうです。</p> <p>この事業は、税込み30万円以上の住宅リフォーム工事が対象で、交付クーポン券は一般世帯が10万円分、子育て世帯が15万円分、三世帯同居世帯が20万円分で、交付額の半分までは大型店舗でも使用可能です。</p> <p>2019年度の実績は、総工事費3億8465万円余、交付クーポン額は3890万円で、経済波及効果は17.9倍だったとのことです。</p> <p>市民の住環境の整備や市内業者も地域も元気にする、富士</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
1 2	笹川 朝子（7）	<p>市独自の住宅リフォーム助成制度の創設を求める立場から、以下質問いたします。</p> <p>(1) 市独自の住宅リフォーム助成制度の創設について伺います。</p> <p>(2) 木造住宅等耐震補強事業と合わせて行う住宅リフォーム助成制度について伺います。</p>	<p>市 長 及 び 担 当 部 長</p>